

第2回委員会議論のポイントまとめ

資料1

委員から	事務局から
たたき台について	
<p>今回のたたき台は動物園をテーマに彫刻を配置しているが、なぜ動物がテーマなのか。</p>	<p>動物をテーマにした理由としては、洋の東西で、古来から動物をモチーフにした絵や彫刻がつくられ人気を博していることがあります。昨今においても、全国の美術館で動物をテーマにした展覧会が数多く開催され、いずれも活況を呈しています。</p>
<p>動物の彫刻の数はどのように決めたのか。</p> <p>彫刻の数は、配置する彫刻の一個がとて大きいというわけではないので、そんなに数が多過ぎるというイメージはないと思う。</p>	<p>彫刻の設置個数については何回も実地調査をした結果、適切と思われる設置場所、個数を提示しています。多過ぎるという懸念があるかもしれませんが、今の計画案で進められれば、まとまった見え方ができ、より楽しい空間になると考えています。</p>
<p>へびやとかげなどの爬虫類には触りたくない。</p> <p>全体的に発想としてすばらしい。爬虫類も含めて賛成である。コミカルに表現されていてよい。</p> <p>へびなどの爬虫類の彫刻に触りづらいという意見もあったが、今回提案されたへびの彫刻は非常にカラフルな色彩なので、人が爬虫類に対して先天的に持っている恐怖感を解消できる効果も期待でき、問題はないと思う。</p>	<p>恐怖感を与えず、親しみを感じる作品を制作していきます。</p>
<p>いろいろなイメージの動物が配置されているが、全体の統一感がなくなることはないか。</p>	<p>全体的な統一感を保ち、かつ幻想的な美術動物園にしていきます。</p>
<p>モチーフとして提案されている作品はそれぞれ似たようなスタイルになっているので、美術館の調整力にもよるが、全体の統一感がなくなることはないと思う。</p>	
<p>彫刻「写るもの」はすばらしい。</p>	
<p>芝生に彫刻を配置するのは良い。</p>	

委員から	事務局から
<p>人が自由に入っている芝生の公園は練馬区にあるか。 芝生の管理費はどのくらい掛かるか。</p>	<p>区内の公園にはゴルフ場のような芝生だけの広場というのはありません。公園は年に3～4回程度、芝刈を行っています。この方法ですと、管理費は㎡あたり年間100円程度ですが、4、5年経つと芝生と雑草が混在した広場になってしまいます。</p>
<p>メンテナンスの考え方を知りたい。</p>	
<p>メンテナンスの経費が掛かるのではないか気になる。特に、植栽のクマはとても経費がかかるように思う。</p>	<p>樹木のメンテナンスは、通常、樹木の剪定は3年に1回、芝生については1年に5～6回で考えていますが、利用者の数や使われ方によって、メンテナンスの方法は検討していきたいと思っています。植栽のクマについては、1年に2回の剪定で済むと思われます。彫刻物は、損傷・褪色もあり5～7年に1度の補修を考えています。</p>
<p>私はメンテナンスに経費が掛かることを心配しているのではなく、お金を掛けてきちんとしたメンテナンスをしてほしいという要望を持っている。</p>	
<p>あまりに動物の彫刻が多いので美術館なのに動物園のような印象を受けた。動物が多過ぎるのではないか。</p>	<p>緑地全体のなかである程度まとまっていないと印象が弱いと思います。</p>
<p>知的障害者の子供達の絵を園路等に展示できないか検討してほしい。 彼らが描いた絵は感性が豊かで、とてもカラフルで温かみがあるので、子供たちも協力して、皆で陶板にしてみてもどうか。</p>	<p>子供たちの絵については、今回設置される動物の彫刻をスケッチするワークショップなどを行い、そこで描かれた作品を美術館のギャラリーに展示することなどが考えられます。</p>
<p>絵を展示してはどうかという意見があったが、彫刻が配置されているなかでは違和感が出るので、絵は別の場所に展示した方がよいと思う。あまり多くの要素を混在させないほうがよい。</p>	
<p>彫刻の案として、いろんな作家のイメージを借りているが、著作権の問題はないか。</p>	<p>今回制作する彫刻は、同じものをそのまま作るというわけではありませんので、著作権の問題はないと考えます。提案した作品をモチーフにしながらも、あくまでもオリジナリティーのあるものを作っていきたいと思っています。</p>

委員から	事務局から
アンリ・ルソーや伊藤若冲などの作品をモチーフにすることは構わないが、中途半端な模倣品にならないように充分注意してほしい。	
彫刻の中に一つだけ昆虫のトンボがあることに違和感を持つ。トンボではなく鳥の彫刻にしてはどうか。	トンボは秋津島とも言い、日本を表しています。また、益虫、勝ち虫と言われ武将の兜にもなっています。ヨーロッパでは東西文化融合の象徴として捉えられています。鳥については、何か特徴のあるものを検討します。
鳥というのは種類が多いので、1種類だけ置いても、かえってバランスが悪くなると思う。	
彫刻を制作するとき、イメージと完成品はどのような関係になるのか、制作は誰が行うのか。	現時点では練馬区で唯一の美術系大学である日本大学芸術学部の彫刻科の教授や学生達にボランティア的に協力してもらおう方向で考えています。
バリアフリー対応	
メインエントランスは広くて良い。車椅子も通行しやすい。	
他の園路も車椅子が通れるのか。	メイン通路は、車椅子の方が安心して通行できるように確保してあります。他の園路も素材やカラーにこだわりながらも、安全性に配慮します。
動物感覚をとぎすます道のアイデアは面白いが、バリアフリーの点で問題ではないか気になる。バリアフリーに対応した道が他にあれば良いが。	
周辺環境	
緑地整備の方向性の一つに中村橋駅前のまちづくりに寄与するとあるが、どのようにしていくのか。	この委員会に、商店街の代表や地域の方にも参加していただいています。今後も、運営等についてご意見をうかがっていきます。
後日聴取分	
動物の彫刻は、精神障害の方の癒しになることが期待できるのでとても良い。	
楽しい空間になりそうである。練馬の新名所になる可能性があり期待している。ただし、彫刻の大きさは、全体としてのバランスを考えてほしい。	
エントランスは、控えめな印象である。もっと広くて堂々としたものがよい。	堂々として、かつ威圧的にならない適度のスケールを検討します。

委員から	事務局から
彫刻の数が多過ぎる。数を減らしたり、または縁辺部に寄せるなどして、利用者が自由に利用できる空間を確保すべきである。そのことが、経費節減にもつながる。	この緑地は、利用者に彫刻を楽しんでもらうことを大きな目的としており、そのことで個性化を図りたいと考えます。そのうえで、自由な空間の確保にも配慮します。
ネリビー（仮称）については、「ゆるキャラ」ブームを受けたもので、一過性になるおそれがある。	ネリビー（仮称）は、区立美術館のロゴマークのデザインから派生したキャラクターですが、一過性に終わらせず、恒常的に使用していきたいと考えます。
緑地内にベンチを設置してほしい。	ベンチの機能を持った彫刻を複数設置します。